

領収データ - こどもワカモノフェスタ2023

発行日

2023年2月11日

宛名

スガワラ トオル

合計

¥1,000

但し

チケット代金

注文日

2023年2月11日

注文番号

19869685

主催者

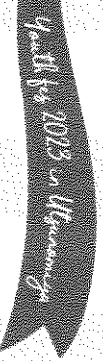
若者フェスタ実行委員会 (こどもワカモノフェスタ)

イベント名

こどもワカモノフェスタ2023

こども（） フエス月

2023



こどもワカモノフエス月が2年ぶりに帰ってきました!

- 不登校のことと知りたいたい、考えたい
- 子どもの居場所?子どもの権利?もつと知りたいたい
- 居場所をつくってどうやるんだ?55?
- 学校がつ5い子ども達の場所ってどこにあるの?
- そんなことを考えたことのある方はぜひご参加ください!

日時 **2023.2.12** 日 10:15 ~ 17:00

場所 **とちぎ青少年センター 7ミークス**
〒820-0162 上野原1番6号

参加費

- 若者や高校生以下 無料
- フエス月+講演会 1,300円 (当日券1,500円)
 - フエス月のみ (講演会なし) 300円 (当日券500円)
 - 講演会オンライン参加 1,000円 (当日券1,500円)

主催 こどもワカモノフエス月実行委員会

共催 一般社団法人栃木県児童会連盟、NPO 法人とちぎ若者ネットワーク、後援 栃木県(申請中)、下野新聞(申請中)、一般社団法人栃木県若者支援機構

コロラ

10:30~12:00 分科会「親の会」「子どもの権利」

- 分科会1:** ~不登校をみんなで見よう~ 対象: 不登校に悩む、または関心のある保護者
 ~不登校の手もかいる保護者を出しぬ当事者、経験者、不登校に悩む人など親の悩みや不安を元になんか考えてみましょう。
分科会2: ~学校や家でのモヤモヤ、一緒に考えてみよう~ 対象: 小学生~高校生対象
 「なんかモヤモヤするな」って話したり「やだな」と思ったり、それって「子どもの権利」に繋がっているかも、一緒に考えてみよう。
 ヒントになるような話もあるよ。

13:00~15:00 講演会「トークセッション」



講演会 ~不登校と多様な学びのハッピーアートハウス~ ゲスト: 明橋大二氏 (精神科医)
 [明橋大二氏] 著書『不登校に悩まされている子どもの心のSOS』や『HSCの子育てハッピーアートハウス』などがあり、「子育てハッピーアートハウス」は累計500万部を超えるベストセラーとなっている。

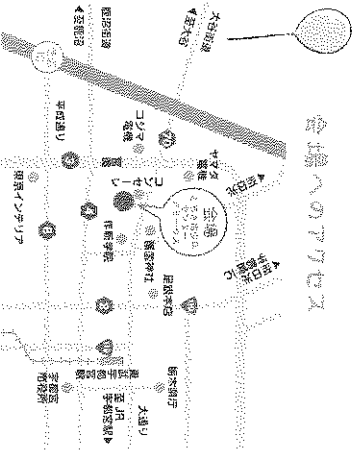
トークセッション 不登校を経験した子どもと当事者から、当時の気持ちや大人へ希望することなど伺います。

15:00~16:30 分科会「子どもの居場所」「夜間中学」

- 分科会3:** ~子どもの居場所カサミット~ 対象: 居場所づくりなどを行っている方、関心のある方
 10年後、すべての子どもに居場所がある未来をつくらう! 未来のためにできることを本気で話し合おうセッションです。
分科会4: ~多様な人々が共に学び合う夜間中学とは?~ 対象: 夜間中学に関心がある方
 国語や年輪、職業や人生経験も異なる非常に多様な人たちが共に学び合う場である夜間中学、その知られざる世界へようこそ!

お申し込みのご案内

世の中には わからないことが いっぱい?	どんなものがあるか 当日のお楽しみ!	おいしい かきもちもあるよ!	ポードゲームなどの 遊びがいっぱい!
料金は体験コーナー 無料	手作り品等 物販コーナー	お食事コーナー	子どもたちのための フリーエリア



会場へのアクセス

前売りチケットの購入方法

下記URLからQRコードを読み取り、チケットをご購入ください。

- Peatix からの申込み
- Peatix からの申込みが難しい場合は、メールにてお問い合わせください。

お問い合わせ

こどもワカモノフエス月実行委員会
 実行委員長 土橋優平
 TEL 080-1853-6296
 メール wakaf11@gmail.com

お申し込みの受付は
2月12日まで!

研修会参加報告

2023年2月12日

佐野市議会議員 菅原 達

◇研修会名：こども若者フェスタ2023

◇開催日時：2023年2月12日

◇開催場所：とちぎ青少年センター アミークス（オンライン参加）

◇研修内容：講演会&トークセッション

「不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス」明橋大二氏（精神科医）

◇所感：精神科医である明橋先生のお話しは、専門家の視点と当事者に寄り添う温かな姿勢など、とても共感する内容でした。

特に、締めの部分で示された、『不登校支援のゆくえ』として、「不登校の子どもの支援を切り口に、多様な学びの保障に道を開き、いずれは日本の教育を変えてゆく。それがひいては、多様な生き方を認め合う社会とつながっていく→すべての人が生きやすい社会へ」との考え方は、不登校の問題は当事者だけの問題ではなく、すべての人に関わる問題であることを示されたものだと思います。

明橋先生の表現を借りると『感覚的にも人の気持ちに敏感』な子たちが、生きづらさを感じる社会を『すべての人が生きやすい社会』へと変えるために、自ら不登校の痛みを背負い、その姿を通し社会に問題提起をしてくれているのではないのかと感じました。

我が家も2人の子どもの不登校を経験しましたが、後になってみればとても貴重で深い意味を持った経験だったと思っています。明橋先生が言われていた『必要だから人類のDNAの中に残されてきた（趣旨）』との言葉の通り、『必要』なことなのだから多くの子どもたちの痛みを、必ずや意味のあることにしていかななくてはならないと思いました。

以上